

2020.12.27

競技会における感染症における防止対策 《競技会実施ガイドライン》

少林寺拳法 東京地区演武競技会
実行委員会

【参考資料】

少林寺拳法修練時における感染拡大防止に関するガイドライン

東京都新型コロナ対策パーソナルサポート

スポーツ庁 社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン

他武道団体全国大会レベル実施要項

競技会実施において、ガイドラインを設定しました。

必ずご一読の上、当競技会の方針についてご理解をください。

少林寺拳法東京地区演武競技会実行委員会一同

【参考資料】 コロナ禍における行事実施

9月実施アンケートにおける現状・希望

with COVID-19 での行事開催

少林寺拳法への回帰に向けてのサポート

一道場

地域（ブロック）

東京都（実業団・学校関係も含む）

全国へ

COVID-19に対する統一見解⇒困難

修練内容
ステップアップ誘導

安全管理を伴った
修練の**情報共有**

コロナ禍での共存

- ↓
- ①できうる点
 - ②ケアする点

回帰への目的とした
意識共有

少林寺拳法が
できる喜び
⇒**気持ちの共有**

少林寺拳法
with COVID-19
在り方を指針

↓

サポート

- ①**情報共有**
- ②**ケアさせる注意喚起**

キーワード「場所・人・時間」⇓3密回避

- 審査員⇒コート数・各コート3名に削減
- 時間帯によっては、競技者・審査員の兼任可

競技
審査

- 競技者名簿⇒HPに掲載ダウンロード
- 大会記念品なし

経費
削減

スタッ
フ

- 出場者・スタッフ・審査員の兼任も可

出場費

- 運営費を出場費のみから捻出
- 出場費：2,000円

東京地区演武競技実施

- 施設の利用上のガイドラインの遵守
- 各会場の有効活用
- それに伴う対応

場所の密
回避

人の密
回避

- 2部制⇒時間交代制
- 競技用コート削減
- 無観客での実施
- 環境の変化に伴う柔軟な種目変更の対応
- 競技事前からの行動抑制

感染防止
に向けた
安全管理

時間の密
回避

- 参加者の自己責任
- 入館時検温
- チェックシートの採用
- インフルエンザ予防接種の奨励
- マスク着用
- 除菌・感染防止に向けた具体策

- 2部制⇒時間交代制
- 実行委員⇒少数
- リモート会議の多用

詳細は次ページ
4つのテーマ

競技会実施における感染防止策

《場所・人・時間の3密回避》

場所の密回避：詳細

館内各会場利用人数制限：東京武道館利用ガイドライン

アリーナ500、観客席500、研修室60、小道場各50

① **無観客での実施【※各団体の引率者⇒3名まで、観客席からの競技撮影可】**

観客席：利用席の間隔をあける⇒利用席の具体的提示

利用方法⇒引率者・出場者控え・次ラウンド待機場所（場所指定）

アリーナ：競技場・関係スタッフ コート数：最大12（4コートx3列）

数コート：リモートの部の利用

競技時間の分割⇒2部制での実施（午前・午後）

② 研修室 60：審査員控室として利用

審査員の減員⇒**コート数：最大12・各コート審査員：3名⇒40名の審査員**

③ 小道場 各50 スタッフの配置⇒置き引き対応

3F：女子更衣室⇐更衣室の密回避

1F：実行委員控室・出場者関係の荷物置き場

弓道場：利用しない

④ その他 施設側より利用上の指導があれば、適宜に対応

開催方法（場所・人・時間の3密回避）

人の密回避：詳細

環境の変化に伴う柔軟な種目変更の対応

単独演武・組演武・団体演武・事前映像提出による（単独・組演武）
エントリー後に詳細を確定

- ① 人の分散を目的として、進行スケジュールを考える
- ② 競技コート最大12（4コートx3列）
コート間の間隔をあける
- ③ コート内人数
競技者数最大15組（30名）・審査員3名・スタッフ2名（集計1・進行1）
- ④ 競技はラウンド制とし、総合点260点以上を表彰（優秀賞）の対象とする
- ⑤ **無観客・無来賓**
出場者：1人1種目
2部制の実施⇒時間帯によって、競技者の完全入れ替え実施
開会式・閉会式の無実施
成績発表：後日都連HPにて掲載
時間帯によるスタッフ・審査員・競技者の兼任可

開催方法（場所・人・時間の3密回避）

時間の密回避：詳細

人数が密となる、過密タイムスケジュールを回避

- ① 競技実施回数：**出場者、種目につき1回**
各種目：ラウンド制の採用
総合点260点以上⇒全て、優秀賞とする
演武披露後：流れ解散も可
表彰：優秀賞⇒賞状のみの発行⇐後日、郵送
- ② 開会宣言・閉会宣言・実行委員長挨拶
式典等は実施しない
- ③ **成績発表⇒後日、HPで公開**

会場における飛沫・接触感染防止策

1、	会場全体における安全対策
館外	密集を避けた集合方法の誘導
館内	<p>①会場のガイドラインの遵守⇒人数制限 ⇒観客席には、着席禁止席の表示</p> <p>②館内の換気⇒扉の全開</p> <p>③密を避けたアリーナ内への入退場</p> <p>④各コートの競技者人数の適切な配置</p> <p>⑤来賓者なし・無観客での実施</p> <p>⑥少林寺拳法修練時における感染拡大防止に関するガイドライン改訂版の遵守</p> <p>⑦全員：会場内での上履きの利用の遵守</p>
	<p>【アリーナ内コート】コート脇：消毒剤・モップ</p> <p>①競技者 演武中以外は、全てマスクの着用 演武終了後：手の消毒・足裏のふき取り　モップ掛け⇒飛沫・接触感染防止</p> <p>②審査員 マスクの常時着用 各コートでの審査終了後、手の消毒</p>

出場者・関係者に関する感染防止策

2、	参加者・審査員・実行委員の安全管理
	<p>①自己責任：自署サイン（誓約書）とチェックシートの記入・当日の提出</p> <p>②自己体調の申告の優先</p> <p>③競技会数週間前からの自己抑制生活の奨励 インフルエンザ予防接種奨励⇒同時感染の抑制の可能性 うがい・手洗い等の奨励 密を回避した行動 その他注意喚起の提示 【参考事例】 柔道体重別全国大会：スマートアンプ法の実施（選手対象）⇒感染確認検査 出場者・スタッフ⇒別導線の確保</p> <p>④当日について</p> <p>i) 館内入場際：検温実施・自己チェックシートの提出・全員マスクの常時着用（飛沫防止）</p> <p>ii) 競技者：コートに消毒剤の設置⇒演武実施前後に利用・モップによる清掃 実行委員：控室消毒剤の設置⇒常時利用・当日対外者への接触禁止 審査員：控室消毒剤の設置⇒常時利用・当日対外者への接触禁止</p> <p>⑤競技会終了後の感染した場合のフォロー：ガイドラインの遵守</p>
3、	【免責事項】 主催団体：出場者および競技会関係者の感染症に関するいかなる責任を負わない